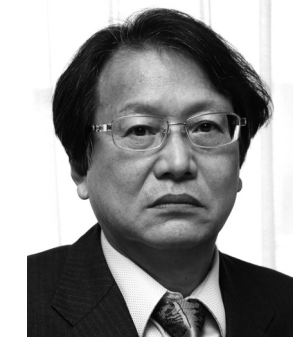


今世界から孤立を深めている日本の診療ガイドライン — 高血圧と脂質異常症について

東海大学医学部名誉教授
大 櫛 陽 一



* 無くならない製薬企業と医者との癒着

* 集中砲火を浴びた人間ドック学会の基準

* 収縮期血圧は年齢プラス90が正常

* 高血圧治療対象者が激増した理由

* 高い血圧と死亡率は関係なし

* コレストロールの話は誤解だらけ

* LDL悪玉説が生まれた背景

* 世界に逆行する日本の基準

* 中性脂肪は高いほど死亡率が低い

* 無駄な医療費は削減できる

柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は東海大学名誉教授の大櫛先生に来ていただきました。大櫛先生は、大阪大学大学院工学研究科をご卒業されました。先ほど伺いましたら、MEという分野を通じて医療関係の研究をされておられたそうです。それで、大阪府立の病院の研究所を経て東海大学医学部で教授をされました。基礎医学がご専門でございます。

私も医療関係のお話はあちこちで伺いましたが、臨床関係のお医者さん、製薬業界の方、それから厚生労働省というのはどうも一体で、無駄な医療をしているのではないかとかねがね思っていました。健康診断につきましては、去年、民間の健保連と人間ドック学会が新しい基準を発表しました後、いろいろ足を引っ張られてう

やむやになりました。大櫛先生はその前から健康診断の基準について疑問を呈しておられました。昨年も7冊本をお書きになったそうです。

今日は皆さんが非常に関心のあるコレステロールと高血圧の本当のお話を聞かせていただるので、ぜひ最後までごゆっくりお聞きください。それでは大櫛先生、よろしく願います。（拍手）

大櫛 よろしく願います。

私は工学部出身で、厚生労働省や医者にお世話になったことはなくて好きなことを言ってきました。2年前に定年退職しました。それからもう何はばからず好きなことを言わせていただいております。それで、いろいろなところから圧力もかけられてはおるんですが、今日は自